2022年（令和4年）
10月18日
（第三種郵便物認可 昭和23年4月15日）
毎月3回発行（第1,第2,第3火曜日）

今号の特集

▷イオンモール土岐開設　③面
▷中京地区
有力ブランド特集　⑥～⑨面

中部飲食料新聞社ホームページ
http://chuin.net/【業界情報発信中】

第3451号
発行所
中部飲食料新聞社
名古屋市中村区名駅5－18－9
電話（052）571－7116代表
FAX（052）571－7118
東京局
東京都中央区日本橋横山町1-4 203
電話（03）5614－7531
FAX（03）5614－7532

中部飲食料新聞

大正から 食を伝えて100有余年

家庭用冷凍食品
引き続き需要拡大
小売企業も相次ぎ強化策

コロナ禍で外出自粛や各種制限などにより内食機会が増加した。各種制限の解除や人流の回復が着実に進むなか、リモートワークなどと同様に内食は定着傾向にあり、なかでも家庭用冷凍食品は「コロナ禍で特に伸長した食品カテゴリー」（食品卸役員）との声が多く、さらなる成長が期待されている。

実際、日本冷凍食品協会が発表した21年の家庭用冷凍食品の生産量は前年比3.6％増の79万8667tと、伸長した前年の反動も見られず前年プラスを維持した。また19年の統計開始以来、初めて家庭用冷凍食品が業務用冷凍食品の売上を上回った。富士経済「2022年食品マーケティング便覧」（21年見込み）でも、冷凍食品及びアイスクリームのフローズン市場の規模は一兆六八四億円とコロナ前の19年と比べ8.6％増。家電量販店ヨドバシカメラでは既存の冷蔵庫では入りきらず、新たに2台目として冷凍庫を購入する動きが増加している。

この家庭用冷凍食品カテゴリーの好調には、コロナ禍の内食機会増を機に新たなユーザーを取り込むとした「間口」の拡大に加え、既存ユーザー以外に新規ユーザーが家庭用冷凍食品の優れた味や食感、レンジ調理するだけなどの利便性を実感し継続購入する「奥行き」の拡大が大きく影響している。さらに、近年増加する少人数世帯に最適な「個食」対応商品が多いことも大きい。

さらに若い時から即席食品に親しんできた現在のシニアの多くは一昔前のシニアと比べ冷凍食品への抵抗感が無く、共働き世帯の増加などから「冷凍食品→手抜き」という冷凍食品への意識が減少していることも大きい。味の素冷凍食品は「冷凍食品は『手抜きではなく〝手間〟抜き』で、手間抜きで創出された時間を他の有意義な時間に使ってもらいたい」としたキャンペーンを展開、日々忙しい主婦層などから賞賛を得られた。

イオン新業態「@FROZEN」計画比2倍に

この家庭用冷凍食品の拡大を受け小売業界も対応に動く。イオンリテールは8月30日に千葉県に1500品目の冷凍食品を取揃える新業態「@FROZEN（アットフローズン）」をオープン、10月中旬時点で計画比2倍の売上と好調な販売を示す。ベイシアは今年7月にベイシアフードセンター川島インターで、パスタだけでも54種類など約800種類の冷凍食品を販売する国内最大級の冷凍食品売場の展開を始めた。主要コンビニチェーンも相次ぎアイランド型の大きな冷食売場の設置を進めている。

キリンビバレッジ×清須市
PETボトル回収で協定締結

キリンビバレッジと愛知県清須市は、「ペットボトルの水平リサイクルに関する協定書」を10月7日に締結した。同社が使用済みPETボトルの回収についてボトルtoボトル水平リサイクルに関して協定を自治体と締結するのは初となる。今回の協定で年間約40tのPETボトルを水平リサイクルする見込み。

協定では清須市で回収された使用済みPETボトルについて、粉砕・洗浄などの工程を経てリサイクルPET樹脂に再原料化されるものを、新たなPETボトルにリサイクルし同社の一部商品に使用する。これにより水平リサイクルで安定的にPETボトルをリサイクルすることで持続可能な循環型社会の実現に貢献する。なお、PETボトルを水平リサイクルすることで、新たな石油由来の原料からPETボトルを作る場合と比べ、温室効果ガス排出量を50～60％削減できる。

協定の内容は①PETボトルの水平リサイクルに係る市民への普及・啓発②PETボトルの水平リサイクルの枠組みの維持③その他PETボトルの水平リサイクル及び資源循環の推進。現在、清須市ではPETボトルはステーション方式のほか、毎月の回収を行い、さらなる回収の取組みについて検討を進める。

清須市とキリンビバレッジ株式会社とのペットボトルの水平リサイクルに関する協定書締結

清須市役所で行われた協定式で清須市・永田純夫市長、キリンビバレッジ・小林雅敬執行役員中部圏統括本部長が協定書を交わした。永田市長は「現在の生活にPETボトルは欠かせない。PETボトルは資源として回収されてリサイクルするが、主に化学繊維に生まれ変わるがその後は廃棄されてしまう。しかし水平リサイクルではPETボトルとして循環し、温室効果ガス削減やゴミ削減につながる素晴らしい取組みである。市民の皆様に良く知ってもらい、市民の生活が地球環境貢献することを認知して欲しい」と述べた。小林執行役員は「キリングループとしてPETボトルの水平リサイクルに取り組んでいる。今回の協定で効率良く安定してPETボトルを回収していくことに大きな意味がある。

缶コーヒー復活は？

中飲 食知る辺

朝晩の気温がはっきりと下がり、ようやく季節が変わったと実感する。今年は9月に入ってから不安定な気温が続き季節の変化を感じにくかった。

肌寒さを感じるようになると温かい飲みものが欲しくなる。かつては自販機の缶コーヒーがそのニーズを満たしていたが、近時は嗜好の多様化、ホット飲料の購買場所の増加により様相が大きく変わり、冬物飲料の主役であったSOT缶のコーヒーは厳しい状況が続いている。

活性化に向けてストーリー性のあるキャンペーン、人気アニメ・マンガとのコラボなど様々な施策が行われ、大きな成果を挙げたものもある。一方で「最近は商品自身のコンセプトでヒットした缶コーヒーが見当たらない」という指摘もある。厳しいとは言え、依然として缶コーヒーは冬物飲料の主役である。缶コーヒーのファンとして今後も市場を牽引する姿を見ていきたいが、そのためには誰もが買いたいと思う商品の魅力が大事になる。

また、回収したPETボトルをリサイクルした容器を『生茶』で活用していく。『生茶』は当社の環境面でのフラッグシップブランドであり、他にもラベルレスボトルや軽量PETボトル導入など様々な取組みを行っていく」と述べた。

日本アクセス「フロアワ」10周年
冷凍食品、アイスクリーム〝食べ放題〟の店舗開設

日本アクセスが主催する日本最大級の冷凍食品・アイスクリームのキャンペーン「フローズン・アワード」10周年を記念し〝冷凍食品とアイスクリームが食べ放題〟の【チン！するレストラン】を10月8～23日までの期間限定でオープンした。

場所は東京都千代田区神田花岡町1－1のJR秋葉原駅前のヨドバシAkiba8Fレストラン街で営業時間は11～21時。予約枠も設ける。

レストラン内には約40社200種類の定番品から話題の新商品まで冷凍食品及びアイスクリームを常時用意（商品のセレクトは日本アクセス）。ランチでは一般が一五〇〇円、中学生・高校生は半額、小学生以下は無料で「90分食べ放題」。ディナーは一般が二五〇〇円、中学生・高校生は半額、小学生以下は無料で「120分食べ放題」となる。来店客は料金を払い、棚にある好きな冷凍食品、アイスクリームを選び、レンジアップは自ら行う。電子レンジコーナーにはヨドバシカメラが店頭で販売する最新型の高性能電子レンジを多数用意、常駐する店員がサポートする。

10月7日にはお披露目会を開催。服部真也代表取締役副社長は「冷凍食品、アイスクリームの需要盛上げなどを目指すキャンペーン『フローズン・アワード』も10回目を迎え、冷凍食品、アイスクリームの新たな魅力を感じてもらう場所、新規ユーザー獲得やフローズン商品の価値発信の場などを目指し、マーケットインの発想で今回のオープンとなった。主原料や人件費の高騰、エネルギーコストの上昇など取り巻く環境が続くが、コロナ禍で伸長した冷食、アイス市場のさらなる活性化に努めていきたい」と挨拶。今津達也マーケティング部長は「ここ数年、冷凍食品市場はさらに成長したが、まだ食経験が無い人は6割も存在する。保存料が添加されているのではないかなど誤解も多くある。コロナ禍でなかなか行えなかった『食べる』という体験ができる場所として、さらに多くの人に冷凍食品やアイスクリームの魅力を伝えることができればうれしい」と述べた。

自然のおいしさ!!
エジマ ジャム
小島食品製造株式会社
本社　東海市名和町一番割中25
電話〈052〉603－3511
ジミー坊や